

東北公益文科大学(全学) ディプロマ・ポリシー

東北公益文科大学学士課程では、「尊重し調和へ」の理念に基づき、「公益」の視点から多様な人々と協働し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を育成します。

この目標の達成のため、本学では教育課程を通じて、卒業に必要な単位を修得し、所属する学部が定める卒業要件を満たし、次の学修成果が確認できたものに学士の学位を授与します。

DP1 知識・理解

幅広い知識と専門分野における基本的な知識を身につけ、それらを活用して、社会の諸問題を多角的な視点からとらえることができる。

DP2 コミュニケーション力・発信力

相手の考えや情報を正確に理解し、自分の考えや情報を正確に伝え、相互理解に基づいた交流を行うことができる。

DP3 国際感覚

自国の歴史と文化を理解し、世界の動向に積極的に関心を持ち、多様な文化を持つ人々とコミュニケーションをするための知識とスキルを備えている。

DP4 創造力・企画力

既存の情報や知識を収集・分析し、現状の課題を明確化し、解決のためのアイデアを提案した上で、それを実現するための計画を立案することができる。

DP5 リーダーシップ

多様な価値観を持つメンバーの個性や多様な意見を尊重し、共通の目標に向かって、自ら考え、互いに協力し、責任をもって行動することができる。

【国際学部】人材育成像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◎国際学部 養成する人材像

英語を主軸としつつ、多言語・多文化への理解と対応力も備えた言語運用能力と国際社会に対する洞察力をもち、異文化や自国の文化への深い見識と多文化共生を推進する能力を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成します。

◎国際学部 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際学部国際コミュニケーション学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程を通じて卒業に必要な単位を修得し、所属する学部が定める卒業要件を満たし、次の学修成果が確認できたものに、学士(国際コミュニケーション)の学位を授与します。

具体的には次の目標に達していることが学位取得の要件となります。

DP1 幅広い知識と理解

分野横断的な学びを通し、言語、文化、社会等、国際コミュニケーションを行う上での前提となる、幅広い知識を身につけている。

DP2 言語運用能力

国際共通語としての英語に対するリテラシーを持ち、異なる言語環境に柔軟に対応しながら、コミュニケーションを行うことができる。

DP3 多文化共生力

多様な文化や価値観を理解し尊重するとともに、異なる文化的背景を持つ人々が共に暮らす社会において生じる課題を捉え、より良い共生のあり方について主体的に考えることができる。

DP4 洞察力

グローバル社会の諸問題について、その社会的背景の理解に基づき分析することができる。

DP5 構想力

地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に向け主体的に学ぶ態度を持ち、これらの推進に向けた課題を発見し、解決に向けた方法を考え、表現することができる。

DP6 行動力

学修経験を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に向け、行動することができる。

DP7 デジタルリテラシー

デジタルツールを効果的に活用し、情報の収集、分析、評価、発信する能力を持っている。

◎国際学部 カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)

- ・ DP1を達成するため、基礎教育科目スタディー導入科目「現代公益論」及びリベラルアーツ・STEAM導入科目に加えて、専門教育科目に共通専門科目「国際コミュニケーション概論」等の科目を配置し必修とするほか、専門基礎科目に英語学・文学領域、多文化理解領域、国際社会領域の科目を配置し、複数分野からの単位の修得を義務づける。
- ・ DP2を達成するため、基礎教育科目にEAP(必修)を配置するほか、その他諸言語科目を配置する。専門基礎科目の領域Ⅰに英語コミュニケーション分野、英語学、英語文学分野の科目を配置する。また英語で行う専門教育科目を配置することでコミュニケーション力を養う。
- ・ DP3を達成するため、専門基礎科目の領域Ⅱに「日本文化入門」「グローバル化時代の地域社会」をはじめとした多文化理解及び多文化共生の推進に関する科目を配置する。
- ・ DP4を達成するため、専門基礎科目の領域Ⅲに「国際社会学」をはじめとした国際社会の科目を配置する。
- ・ DP2、3を達成するため、海外への留学を義務づける。
- ・ DP4、5、6を達成するため、専門教育科目に応用演習科目や専門演習を配置して履修を義務づけ、学修経験を活かしながら、課題解決に向けて実践的に取り組めるようにする。
- ・ DP7を達成するため、『データサイエンス・AI教育プログラム』の各科目を配置する。
- ・ DP1からDP7を達成するため、アクティブラーニング科目を多く配置し、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に対する主体的な意識や態度を養う。
- ・ DP1からDP7を達成するため、PBL¹形式の演習科目や少人数教育、習熟度別クラス編成を行う。
- ・ 学修成果の評価はシラバスの「成績評価基準」で明示した方法により行う。また、学生による授業評価や、卒業生調査及び卒業時調査等の結果を踏まえ、カリキュラムの改善に努める。

¹ Project Based Learning:課題解決型学習

授業

◎ セメスター(2学期制)とクォーター(4学期制)

・セメスター:1年間を「春学期」と「秋学期」の2つのセメスターに分け、各セメスター14週(集中講義を除く)で1科目を修了し、単位を修得します(試験を実施しない科目は13週で1科目修了となります)。

(1)春学期:4月1日～9月30日、(2)秋学期:10月1日(9月中に授業開始の場合あり)～翌年3月31日

・クォーター:各セメスターをさらに2分割(春学期→S1・S2クォーター、秋学期→A1・A2クォーター)し、7週で1科目を修了し単位を修得します。講義を集中的に受講することで、春学期後半(S2クォーター)と夏季休業期間を利用して、長期のインターンシップや海外への中期留学に参加することが可能となります。

◎ 授業時間

授業は1時限を105分とし、月曜日から土曜日の間で、第1時限から第5時限まで行います。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
8:45～10:30	10:40～12:25	13:10～14:55	15:05～16:50	17:00～18:45

◎ 集中講義

各セメスターに開講される科目のうち、一部の科目については、一定の期間に集中して授業を行う場合があります。その場合、授業は1科目につき、1日2～5時限連続して数日にわたり行われます。

◎ 休講・補講

教員のやむを得ない事情等で授業が休講になることがあります。その場合は、あらかじめ掲示板等を通じてお知らせします。また、事前に休講のお知らせができない場合で、授業の開始時刻から30分経過しても授業が行われない時も休講といたします。

なお、休講があった場合は、原則として、これを補うために時間割の空き時間や補講日などを利用して補講を実施します。補講の日程等の詳細は掲示板等を通じてお知らせします。

◎ 欠席

次の場合は、学生からの申し出により、教務学生課で科目担当教員に通知する書類を発行します。該当しない場合は、各自で速やかに科目担当教員に申し出てください。欠席した回の授業内容は、科目担当教員の指示に従って自習してください。

(1) 病気・怪我による欠席

医師の診断書またはそれに代わるものを持参して、教務学生課で手続きしてください。

ただし、授業を4回以上欠席する場合は、科目担当教員の判断に委ねられます。

(2) 3親等以内の忌引きによる欠席(往復に要する日数は、別途考慮する。)

・ 配偶者及び1親等は、7日以内 教務学生課で手続きしてください。

・ 2親等は、3日以内 教務学生課で手続きしてください。

・ 3親等は、1日以内 教務学生課で手続きしてください。

(3) 教職課程履修に係る教育実習、介護等体験期間中の欠席

教務学生課で発行する欠席の「期間証明書」を事前に担当教員へ提出してください。

(4) 「社会実習(インターンシップ)」履修に係る実習期間中の欠席

教務学生課で発行する欠席の「期間証明書」を事前に担当教員へ提出してください。

(5) その他やむを得ない事由

欠席理由を証明する書類を事由の発生後速やかに教務学生課に提出してください。

「やむを得ない」と認められるかどうかは、大学で個別に判断します。

◎ オフィスアワー

すべての教員は、「オフィスアワー」という学生のための時間帯を設けています。この時間帯には、教員は個人研究室で学生の質問や個人的な指導、相談にあたることになっています。その教員の授業を取っているかどうかにかかわらず、気軽に研究室を訪れて、個人的な指導を受けたり相談をしたりしてください。

時間帯は、基幹教員については掲示板を見るか直接問い合わせてください。基幹教員のメールアドレスは

東北公益文科大学ホームページ(<https://www.koeki-u.ac.jp/>)の「教員紹介」の各教員のページで確認してください。非常勤講師は担当授業終了後10分程度、教室または講師控室で対応します。

単位

単位とは、学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験等により合格と判定されたときに与えられます。1単位あたりの学修時間には、法令上、授業外学修の時間も含まれていますので、各科目のシラバスに従って、予習・復習を行うことが必要です。

単位数は授業科目ごとに定められ、一定の単位数の修得をもって卒業の要件としています。

単位の計算方法については次のとおりです。

(1)講義及び演習については、15時間の講義または演習をもって1単位とします。

(2)実習については、30時間の実習をもって1単位とします。

履修の仕方

◎ 授業科目の区分・必修科目・選択科目

授業科目は、いくつかの区分に分かれていて、それぞれの区分で修得しなければならない単位数が定められています。

また、卒業要件として必ず修得しなければならない科目を「必修科目」、一定の科目群の中から所定の科目を履修しなければならない科目を「選択必修科目」、各自の興味や目的に従い自由に選び、履修することができる科目を「選択科目」といいます。

◎ 履修年次

各科目には、その科目を履修することができる学年(履修年次)が定められていますので、カリキュラム表で確認してください。

◎ 履修単位数の目安

履修単位数は Semester あたり20単位(1年間で40単位)を目安に設定し、「カリキュラムツリー」と「履修モデル」を参考に、3年次終了時点で「卒業見込証明書」の発行条件(履修ガイド p.9 参照)を満たすことができるよう、計画的に履修してください。

◎ 再履修

修得できなかった科目については、次期 Semester 以降に再度履修して単位を修得してください。また、必修科目が不合格になった場合は、時間割の構造上、次の学年での履修に制約が生じる場合があり、希望する科目が履修できなくなることがありますので、十分注意してください。

◎ 修得済科目

一度単位を修得した科目を再度履修することはできません。

◎ シラバス

シラバスとは、各科目の概要、授業計画、成績評価の方法などについて詳しく記したものです。教務システム「SIP」でそれぞれの科目のシラバスを検索して確認の上、よく読んでから履修登録を行ってください。

教務システム「SIP」 <https://sip.koeki-u.ac.jp/uprx/>

◎ スキルの獲得

国際学部では、在学中に皆さんに身につけてほしいスキルとして、「幅広い知識と理解」「言語運用能力」「多文化共生力」「洞察力」「構想力」「行動力」「デジタルリテラシー」の7つを定めています。各科目のシラバスの上部には「育成するスキル」を表示しており、その授業を受ける中で獲得することができるスキルを○印で示しています。いずれも在学中や社会に出た後でも必要とされる能力になりますので、授業の履修計画を

考える際は履修モデル、カリキュラムツリー、皆さんの興味関心に加えて、各スキルを身につけることも念頭におくと良いでしょう。

履修登録

各学期(セメスター)の開始前に、履修したい科目を登録します。S1・S2クォーターの科目は春学期開始前に、A1・A2クォーターの科目は秋学期開始前に履修登録を行います。夏季・春季集中講義(それぞれS2クォーター・A2クォーター科目に該当)も各学期開始前に履修登録が必要です。履修登録をせずに授業に出席して試験を受けても単位は認められません。詳細は各学期のガイダンスで説明します。

◎ 履修登録上の注意(履修条件等)

科目を登録するにあたり、科目によってはいくつかの履修条件があります。条件については次のとおりです。

- (1) 科目名の語尾にローマ数字(I~Ⅷ)が付いている科目は、Iから順番に履修・修得すること。Iを単位修得していない場合、IIは単位修得できません。
- (2) 算用数字の1~4が付いている科目は、1から順番に履修・修得すること。
- (3) 履修条件(指定の前提科目を修得していないと履修できない等)を設けている科目もあるため、シラバスを十分に確認した上で、履修登録を行うこと。

その他、再履修等により時間割上科目が重複する場合や、やむを得ない理由で期間内に登録できない場合は、あらかじめ教務学生課に相談してください。

◎ 履修登録の上限

法令に基づき、履修登録できる上限単位数を定めるキャップ(CAP)制を実施しています(編入生を除く)。1セメスターあたり20単位を基準とし、直前セメスターのGPAにより最大24単位まで登録できます。ただし、キャップ制の対象外となる科目もあり、対象外の科目は履修登録上限単位数に含まれません。

2026年度入学生対象外科目:

海外探究型実践プログラム、社会実習(インターンシップ)、留学外国語の科目、卒業単位外の科目(教職課程独自の科目)

履修登録の上限単位数(基準値)は、直前セメスターのGPA(「成績」の欄を参照)に応じて異なります。

【直前セメスターのGPAと上限単位数】

直前セメスターのGPA	履修登録上限単位数
3.0以上	24
1.5以上~3.0未満	22
1.5未満	20

◎ 履修登録時期・方法など

履修登録期間は、学年暦で確認してください。学年暦は掲示するほか、ガイダンスで配付および大学からのメール等で公開します。履修登録は、本学教務システム:SIP(<https://sip.koeki-u.ac.jp/uprx/>)より履修登録期間内に必ず正しく手続きしてください。

◎ 履修登録の訂正

履修登録期間終了後の登録内容の修正は原則認めません。履修登録の内容は、教務システム「SIP」にて各自で確認してください。やむを得ず訂正の必要がある場合は、「履修登録訂正期間」中に限り、訂正が可能です。履修登録訂正期間終了後は履修登録の追加は一切できませんので注意してください。

◎ 履修登録取消制度

履修登録取消制度は、一旦履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たものの、以下のような理由から履修を取り消すことができます。ただし、必修科目、選択必修科目の取り消しはできません。

履修登録取消期間は、学年暦にて確認してください。

- (1) 授業の内容が自分の勉強したい内容と違っていた

(2) 授業についていけるだけの知識が不足していることに気付いた

(3) 健康上等の理由で履修科目を減らしたい

なお、履修登録取消期間後の科目の取り消しは一切認めません。期間中に届出がなく、自ら履修を放棄した場合は、「不可」(GP=0)としてGPAが算出されるので、十分注意してください。

試験

試験は原則としてその科目が開講されたセメスターまたはクォーターの最終授業時間に「定期試験」として行いますが、科目によっては定期試験とは別に何回か試験やレポート提出が行われ、それらを総合して成績が評価されるものもあります。また、レポート等が試験に代わる科目もあります。詳しくはシラバスで確認の上、担当教員の指示に従ってください。

なお、定期試験の注意事項については次のとおりです。

- (1) 定期試験受験の際は、学生証が必要です。学生証を持参しなかった場合は、各試験の前に、教務学生課で「定期試験受験許可書」の発行を受けてください。
- (2) 試験時間は原則として105分以内です。
- (3) 試験開始から20分以上遅刻した場合は受験できません。
- (4) 試験開始から20分経過した者は、「定期試験受験許可書」の発行を受けるために遅刻した場合であっても、受験することができません。
- (5) 退室は試験開始30分経過後から認めます。ただし、担当教員から指示があればそれを優先します。
- (6) その他、試験中は監督者の指示に従ってください。
- (7) 受験にあたって不正行為があった場合は、学生の懲戒に関する規程により、懲戒処分となります。詳しくは、「東北公益文科大学学生の懲戒に関する規程」を参照してください。

※レポート課題等の提出には、大学が付与しているメールアドレスを使用しましょう。メールや各種システムでの課題提出の際は、「学籍番号」「氏名」「科目名」を必ず明記し、そのほか、担当教員の指示をすべて順守して提出してください。また、課題提出に関してトラブルを避けるため、送信・受信されているかの確認を各自で行ってください。

◎ 受験資格

- (1) 履修登録した科目のみ受験可能です。未登録科目は受験できません(仮に受験しても無効です)。
- (2) 休学または停学中の場合は受験できません。

◎ 定期試験における特別措置

怪我、病気及び精神等の疾患・障がいがある学生は、申請により障害学生支援委員会から許可された場合、定期試験において特別措置を受けることができます。

特別措置を希望する場合は、大学所定の「定期試験における特別措置申請書(様式 1)」と「定期試験特別措置申請科目一覧(様式 2)」を教務学生課に提出してください。

◎ 追試験

次の理由で定期試験を欠席した授業科目については、本人が願い出、認められた場合は追試験を実施します。追試験を希望する場合は、追試験受験願(大学所定のもの)に欠席理由を証明する書類(医師の診断書など)を添付して、教務学生課に提出してください。

- (1) 病気、けが(医師の診断書が必要)
- (2) 忌引(配偶者及び1～3親等に限り、配偶者及び1親等は7日以内、2親等は3日以内、3親等は1日以内(ただし、往復に要する日数は別途考慮する。))
- (3) 就職に関する事由
- (4) その他やむを得ない事由

なお、各項目に該当する事由は次の表のとおりです。

項目	具体的な事由	必要書類・摘要
病気けが	(i) 本人の病気、けが	・医師の診断書または氏名・通院日明記の「領収書」等。2日以上欠席の場合は治療期間が記載されていること。 ・健康管理室が発行する確認書
引	(i) 配偶者及び3親等以内の危篤または死亡（配偶者及び1親等は7日以内、2親等は3日以内、3親等は1日以内）	・医師の診断書、死亡診断書の写しまたは会葬礼状等
就職に関する事由	(i) 採用試験（筆記試験及び面接試験）（教員採用試験、公務員採用試験及び内定先から出席が必須とされた会合を含む）	・企業、官公庁等発行の証明書※（試験日時や会場が明記され、社印等が押印されていること）または受験票等 ※様式は大学で配付します。
	(ii) 大学院等入学試験	・受験票（試験日時や会場の明記がない場合募集要項等）
	(iii) 本学の教育課程の延長上にある資格取得のための試験	・受験票（試験日時や会場の明記がない場合募集要項等）
その他やむを得ない事由	(i) 子、兄弟姉妹の結婚（1日以内）	・招待状等
	(ii) 出産（本人は7日以内、配偶者は1日以内）	・出生証明書の写し
	(iii) 公共交通機関の不通・遅延	・遅延証明書
	(iv) 災害、自宅の火事	・り災証明書の写しまたは被災状況が確認できる書類等
	(v) 大学コンソーシアムやまがたの単位互換制度における試験日の重複	・（大学から求められた場合のみ）試験日時が確認できる書類等
	(vi) 本学の教育課程における資格取得に係る実習（教育実習、介護等体験、社会福祉士国家試験受験資格取得に係る実習）	
	(vii) 本学正課科目「インターンシップ」	
	(viii) 部活動等における「学生の日本代表」又は「全国大会クラス」以上の大会で大学が認めたものへの参加	・出場が確認できる書類等 ※文化系の団体大会等は個別に判断するので、定期試験開始日から起算して45日前までに、教務学生課に相談すること。
	(ix) 裁判員候補者、裁判員または補充裁判員	・裁判所が発行する証明書
	(x) 学部長（または教育推進委員長）が受験を許可した場合	

※ いずれの場合も往復に要する日数は別途考慮する。

※ その他やむを得ない事由に、「骨髄移植、生体臓器移植等に係るドナーとなった場合」を含む。この場合、「医師が発行する証明書」が必要。

※ 科目担当教員の判断で、授業時間中に実施されるテストは学期末試験にはあたらないので、欠席した場合は各担当教員に指示に従うこと。

◎ 再試験

成績不良のため単位の修得ができなかった場合、原則として再試験は行いません。ただし、卒業年次でやむを得ない事情により教育推進委員会が承認する場合には、再試験を行うことがあります。なお、再試験の成績の評価は「良」以下となります。

成績

◎ 成績評価

成績は、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」で表し、「可」以上を合格とします。成績評価は次の基準により行われます。

◎ GP(グレード・ポイント)

履修した科目の成績評価を数値化したものです。1単位あたり、「秀=4」、「優=3」、「良=2」、「可=1」、「不可=0」に置き換えます。2単位の科目の成績評価が「秀」の場合、その科目のGPは「8」となります。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	秀(S)	90~100	4	特に優秀な成績
	優(A)	80~89	3	すぐれた成績
	良(B)	70~79	2	その科目の要求を満たす成績
	可(C)	60~69	1	合格と認められる最低の成績
不合格	不可(D)	59点以下	0	合格と認められる最低の成績に達していない
GPA対象外	認(認定)	—	—	編入学、単位互換、科目等履修等

◎ GPA(グレード・ポイント・アベレージ)

履修した科目の成績評価を数値化し、1単位あたりの平均点を算出したものです。小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで算出します。GPAは履修登録上限単位数の決定(履修ガイド p.4参照)や奨学金の継続審査等に使用します。

【算出例】

科目名	単位数	評価	GP	GP×単位数
基礎演習	2	A	3	6
西洋史	2	C	1	2
政治学	2	D	0	0
倫理学	2	B	2	4
経済学	2	S	4	8
EAP1	2	A	3	6
EAP2	2	B	2	4
情報リテラシー	2	S	4	8
国際コミュニケーション概論	2	B	2	4
社会学	2	S	4	8
国語基礎(GPA対象外)	0	A	—	—
合計	20	—	—	50

$$GPA = 50(GP \times \text{単位数}) \div 20(\text{単位数}) = 2.5 (\text{小数点第2位四捨五入})$$

◎ 成績通知

成績は原則として次セメスター初めにアドバイザー教員から配付します。保証人にも公開されます。

◎ 成績評価問い合わせ

成績について、質問や異議がある場合は問い合わせることができます。教務学生課にて手続期間や条件等を確認し手続きをしてください。

◎ 成績不振の場合について

学則第 57 条第 2 号により「病気その他の理由で成業の見込みがない者」は除籍の要件に該当します。成績不振の状態になった場合は、その原因が何かを考え、アドバイザー教員など周りの人の意見を良く聞いて、その状態が長く続かないようにしてください。

進級・卒業・学位

◎ 3年次進級要件

3年次に進級するためには、2年次終了時までには各科目区分に定められた3年次進級に必要な単位を修得しなければなりません。詳細は次の表のとおりです。1年次から2年次、3年次から4年次への進級要件はありません。ただし、学長が特に認めた場合は、この限りではありません。

◎ 卒業要件・学位

卒業するには、4年間以上在学し(休学期間は含まれません)、以下の表に示す卒業要件を満たさなければなりません。

万が一休学した場合は、入学から4年後の卒業はできなくなります。

卒業とともに学士(国際コミュニケーション)の学位が与えられます。

◎ 3年次進級要件と卒業要件

【2026年度入学生】

科目区分		3年次進級要件	卒業要件	
基礎教育科目	スタディー導入科目		6単位	48単位以上 (うち26単位は必修)
	リテラシー科目	情報科目	8単位	
		キャリア科目	4単位以上	
	リバラルアーツ・STEAM導入科目		選択必修 2単位以上 を含め 10単位以上	
	外国語科目	英語科目	8単位	
その他諸言語		2単位以上		
専門教育科目	共通専門科目		8単位	発展教育科目と合算して 76単位以上 (うち16単位は必修)
	専門基礎科目	領域Ⅰ(英語学・文学)	34単位以上。ただし 各領域の選択必修から 6単位以上	
		領域Ⅱ(多文化理解)		
		領域Ⅲ(国際社会)		
	応用演習科目		4単位以上	
専門演習		8単位		
発展教育科目	発展外国語		※留学外国語が選択必修(2単位以上) 専門教育科目と合算して 76単位以上	
	教職課程			
	留学外国語			
	キャリア発展科目			
リメディアル科目		国語基礎及び数学基礎		
合計		50単位以上	124単位以上	

各種証明書の発行条件

◎ 卒業見込証明書

以下の条件を満たしている場合に発行できます。

- (1) 3年以上在学していること。
- (2) 修得単位数が100単位以上(卒業に必要な単位)であること。
- (3) 「専門演習Ⅰ」の単位を修得していること。
- (4) 「国語基礎」「数学基礎」を修得していること。

教職課程

教職課程の履修の仕方については、教職課程ガイダンスで別途配付するガイド等を参照してください。わからないことがあったら、教職担当教員または教務学生課教職担当にその都度確認してください。

留学

国際学部では、短期留学または中期留学のいずれかを選択必修としています。共通する目的は、異なる言語・文化を持つ人々との交流を通じて、実践的な言語運用能力を高めるとともに、多様な価値観を理解し、文化的背景の異なる他者と協働・共生する力を養うことにあります。

詳しくは留学ガイダンスの際に案内します。

多文化共生コーディネーター養成プログラム

山形県と東北公益文科大学との協働により、「多文化共生コーディネーター」の資格取得のための養成プログラムを提供します。

本プログラムにおける「多文化共生コーディネーター」とは、国籍やエスニシティの異なる人々が地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会の実現に向けて、外国人住民の抱える生活課題やニーズを理解し、外国人の生活を支える関連法制度や社会資源に関する知識を有し、課題の解決に向けた関係機関等との対話、連携とコーディネーションに取り組む人を指します。

資格取得に必要な科目やプログラムの詳細は別途ガイダンス等で案内します。

国際学部 カリキュラム

大区分	中区分	小区分	1年次		2年次		3年次		4年次		種別	単位数	備考(卒業要件等)		
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター					
基礎教育科目	リベラルアーツ・STEAM導入科目	スタンダード導入科目	●現代公益論[2] ●基礎演習[2]	●山形地域論 [2]							必修	6	・基礎教育科目から48単位以上 ・リベラルアーツ・STEAM導入科目の ○から2単位選択必修 ・その他諸言語科目の○から2単位選択必修		
		情報科目	●情報リテラシー[2]	●データリテラシー[2]	●基礎プログラミング I [2]	●基礎プログラミング II [2]					必修	8			
		キャリア科目	●キャリアデザイン a [2]			●キャリアデザイン b [2]					必修	4			
	リベラルアーツ・STEAM導入科目	文章表現法[2] 日経講座：メガトレンド論[2] ジャーナリズムの倫理[2]						企業研究セミナー[1]				選択			
	英語科目	●EAP1[2] ●EAP2[2]	●EAP3[2] ●EAP4[2]											必修	8
	その他諸言語科目	○中国語初級 I [2] ○ロシア語 I [2] ○韓国語 I [2] ○日本語教育とやさしい日本語[2] ○日本語手話[2]						留学生のみ履修可能：○日本語演習 a [2]				選択必修		2以上	
専門教育科目	共通専門科目	●国際コミュニケーション概論[2]	●多文化共生論[2]										必修	8	・専門基礎科目から34単位以上 ・発展教育科目と合算して76単位以上
	領域Ⅰ (英語学・文学) 16科目32単位			○English Presentation I [2]	○英米文学概論[2]						選択必修	6以上			
				○英語学概論[2]	○英語音声学[2]						選択				
				○Intensive Reading I [2]	○英米文化入門 [2]						選択必修	6以上			
	領域Ⅱ (多文化理解) 18科目36単位			○興文化コミュニケーション[2]	○興文化コミュニケーション[2]						選択				
				○文化人類学[2]	○興文化コミュニケーション[2]						選択				
	領域Ⅲ (国際社会) 14科目28単位			○国際社会学[2]	○移民・難民論[2]						選択必修	6以上			
				○国際関係学[2]	○グローバル社会と経済[2]						選択				
	応用演習科目 【4科目】			プロジェクト型応用演習Ⅰ [2]		プロジェクト型応用演習Ⅱ [2]				選択必修	4以上				
				社会実習 (インターンシップ) [2]		海外探究型実践プログラム[2]				必修	8				
専門演習			●専門演習Ⅰ [4]				●専門演習Ⅱ [4]				必修	8			
発展教育科目	発展外国語	Active Listening and Reading (中級) [2] Active Listening and Reading (上級) [2] Intensive Listening and Reading[2]										選択			
	教職課程	英語科教育法Ⅰ [2]		英語科教育法Ⅱ [2]	英語科教育法Ⅲ [2]	英語科教育法Ⅳ [2]					選択				
	留学外国語	○短期留学a[2] ○短期留学b[3] ○中期留学a[6] ○中期留学b[8] ○中期留学c[10]										選択必修	20以上		
	キャリア発展科目	アントレプレナーシップ入門[2] アントレプレナーシップ基礎a[2] アントレプレナーシップ基礎b[2] アントレプレナーシップ基礎c[2] アントレプレナーシップ応用a[2] アントレプレナーシップ応用b[2]										選択			
リメディアル科目【2科目】	●国語基礎 ●数学基礎											卒業単位外	修得が義務		

●必修科目 ○選択必修科目

合計 124

科目ナンバリングとカリキュラムツリー

各授業科目が関連する分野や学修段階を体系的に示すことを目的に、科目のナンバリングを行っています。

◎ 科目ナンバリング

授業科目に特定の番号(コード)を割り振り、その科目の「分野」や「難易度」を分かりやすく示したものです。各科目区分をアルファベット 3 文字で標記した上で、科目を「基礎レベル」「中級レベル」「上級レベル」の 3 段階に区分し、それぞれ 100 番台、200 番台、300 番台を割り当て、その科目がどの科目区分に属し、どの程度の難易度のものであるかが一目でわかるようにしています。10 の位は分野を表し、アルファベットとの組み合わせで、それぞれの科目の位置づけを表しています。

例えば、専門基礎科目の領域 I(ELL)であれば、10 番・20 番台が「英語文学」、30 番・40 番台が「語学」、50 番・60 番台が「英語学」、70 番・80 番台が「音声学」、90 番台が「応用分野」のそれぞれに関する科目です。

◎ カリキュラムツリー(履修系統図)

カリキュラムツリーは、卒業までに必要な授業科目の「つながり」と「学ぶ順番」をツリー状(図式)で示したものです。

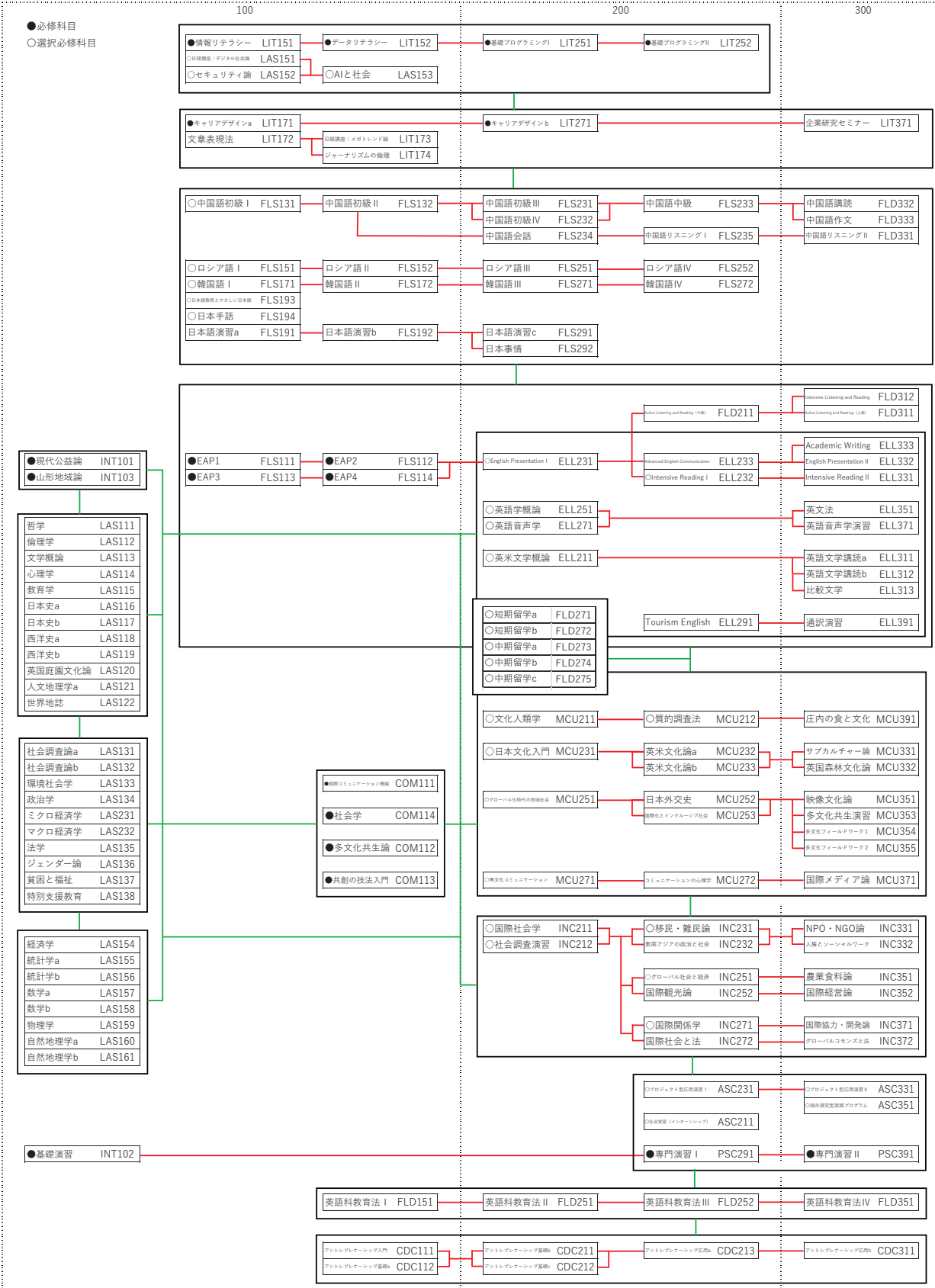
- ・ 学びの流れが見える:どの基礎科目がどの専門科目につながるのか、1 年次から 4 年次までのステップが一目でわかります。
- ・ 履修計画に役立つ:自分が将来目指す分野に必要な科目を、いつ履修すべきか計画を立てる際のガイドになります。

履修登録を行う前にこの図を確認し、効率的で計画的な学習を進めましょう。

国際学部科目ナンバリング

科目分類		略称		大分類(100の位)			中分類(10の位)						
				100	200	300	0	10,20	30,40	50,60	70,80	90	
基礎教育科目	スタディー導入科目		INT	Introduction	基礎レベル	中級レベル	上級レベル	スタディー	-	-	-	-	-
	リテラシー科目	情報科目	LIT	Literacy				-	-	-	情報	キャリア	-
		キャリア科目						-	人文科学系	社会科学系	STEAM導入	-	-
	リベラルアーツ・STEAM導入科目		LAS	Liberal Arts and STEAM				-	英語	中国語	ロシア語	韓国語	日本語
	外国語科目	英語科目	FLS	Foreign Language Subjects				-	共通	-	-	-	-
その他諸言語科目		-						英語文学	語学	英語学	音声学	応用分野	
専門教育科目	共通専門科目		COM	Common				-	理論・方法	多様な文化の理解	多文化共生の推進	コミュニケーション	応用分野
	専門基礎科目	領域Ⅰ(英語学・文学)	ELL	English Language and Literature				-	理論・方法	多文化共生と社会	ビジネスと経済	国際法と国際協力	-
		領域Ⅱ(多文化理解)	MCU	multicultural understanding				-	インターン	プロジェクト型	海外探究型	-	-
		領域Ⅲ(国際社会)	INC	International Community				-	-	-	-	-	専門演習
	応用演習科目		ASC	Applied seminar course	-	-	-	-	-	-			
	専門演習		PSC	Professional Seminar Course	-	-	-	-	-	-			
発展教育科目	発展外国語		FLD	Foreign Language Development Courses	-	発展外国語(英語)	発展外国語(中国語)	教職課程	留学外国語	-			
	教職課程				-	起業家教育	-	-	-	-			
	留学外国語				-	-	-	-	-	-			
	キャリア発展科目		CDC	Career Development Courses	-	-	-	-	-				

国際学部カリキュラムツリー



履修モデル

国際学部では、学生が主体的に学修計画を立てられるよう、系統的な履修の推奨例として「履修モデル」を提示しています。

これは学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、特定の専門性やキャリア形成に必要な科目をパッケージ化したものです。カリキュラムツリーに示された科目間の順次性を踏まえ、学年ごとの適切な配当科目を示すことで、体系的な学びを支援します。

学生の皆さんには、自身の卒業後の進路を見据え、適切なモデルを選択・参照することが推奨されます。

◎ 履修モデル 1 「英語運用能力と多文化理解に基づくコミュニケーション能力を持ち地域社会や国際社会に貢献する人材」

将来の進路として、中学・高校の英語教員や観光、小売・流通業などの企業が挙げられます。

科目区分		履修科目	単位数	
基礎 教育 科目	スタディー導入科目		●現代公益論、●基礎演習、●山形地域論	6
	リテラシー 科目	情報科目	●情報リテラシー、●データリテラシー、 ●基礎プログラミングⅠ、●基礎プログラミングⅡ	8
		キャリア科目	●キャリアデザイン a、●キャリアデザイン b	4
	リベラルアーツ・ STEAM 導入科目		○セキュリティ論、○AI と社会、日本史 a、日本史 b、西 洋史 a、西洋史 b、世界地誌、 倫理学、心理学、教育学、特別支援教育、	20
	外国語 科目	英語科目	●EAP1、●EAP2、●EAP3、●EAP4	8
	その他諸言語科目	○日本語教育とやさしい日本語	2	
専門 教育 科目	共通専門科目		●国際コミュニケーション概論、●社会学、 ●多文化共生論、●共創の技法	8
	専門 基礎 科目	領域Ⅰ(英語学・文 学)	○English PresentationⅠ、○英語学概論、 ○英米文学概論、○英語音声学、 ○Intensive ReadingⅠ、Intensive ReadingⅡ、 Advanced English Communication、英文法、 Academic Writing、English PresentationⅡ、英 語音声学演習、通訳演習、Tourism English、英語文 学講読 a、英語文学講読 b	30
		領域Ⅱ(多文化理 解)	○異文化コミュニケーション、○日本文化入門、○グロー バル化時代の地域社会、英米文化論 a、英米文化論 b	10
		領域Ⅲ(国際社会)	○国際社会学、○移民・難民論、○グローバル社会と経 済	6
	応用演習科目		○プロジェクト型応用演習Ⅰ、 ○社会演習(インターンシップ)	4
	専門演習		●専門演習Ⅰ、●専門演習Ⅱ	8
発展 教育 科目	発展外国語			
	教職課程		英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲ、英 語科教育法Ⅳ	8
	留学外国語		○短期留学 a	2
	キャリア発展科目			
リメディアル科目		●国語基礎、●数学基礎	卒業単位外	
合計			124	

◎ 履修モデル 2 「多文化共生力を持ち地域社会の国際化に貢献できる人材」

将来の進路として、地方自治体、企業、国際交流協会、在留外国人の生活支援・就労支援を担う NPO 等に就職し、多文化共生を推進するキーパーソンとして活躍することが期待されます。

科目区分		履修科目	単位数	
基礎教育科目	スタディー導入科目		●現代公益論、●基礎演習、●山形地域論	6
	リテラシー科目	情報科目	●情報リテラシー、●データリテラシー、●基礎プログラミング I、●基礎プログラミング II	8
		キャリア科目	●キャリアデザイン a、●キャリアデザイン b	4
	リベラルアーツ・STEAM 導入科目		○日経講座：デジタル社会論、倫理学、日本史 a、西洋史 a、人文地理学 a、ジェンダー論、社会調査論 a、社会調査論 b	14
	外国語科目	英語科目	●EAP1、●EAP2、●EAP3、●EAP4	8
その他諸言語科目		○中国語初級 I、中国語初級 II、中国語初級 III、中国語初級 IV	8	
専門教育科目	共通専門科目		●国際コミュニケーション概論、●社会学、●多文化共生論、●共創の技法	8
	専門基礎科目	領域 I (英語学・文学)	○English Presentation I、○英米文学概論、○Intensive Reading I、Tourism English	8
		領域 II (多文化理解)	○日本文化入門、○質的調査法、○グローバル化時代の地域社会、○異文化コミュニケーション、英米文化論 a、庄内の食と文化、コミュニケーションの心理学、サブカルチャー論、映像文化論、国際化とインクルーシブ社会、日本外交史、多文化共生演習、多文化フィールドワーク 1、多文化フィールドワーク 2	28
		領域 III (国際社会)	○国際社会学、○移民・難民論、○国際関係学、NPO・NGO 論、人権とソーシャルワーク	10
	応用演習科目		○プロジェクト型応用演習 I、○社会実習(インターンシップ)	4
専門演習		●専門演習 I、●専門演習 II	8	
発展教育科目	発展外国語			
	教職課程			
	留学外国語	○中期留学 a	6	
キャリア発展科目		アントレプレナーシップ入門、アントレプレナーシップ基礎 a	4	
リメディアル科目		●国語基礎、●数学基礎	卒業単位外	
合計			124	

◎ 履修モデル3 「国際社会で必要とされる知識/力を持ち国際・地域社会で活躍/貢献する人材」
 将来の進路として、企業、NPO スタッフ、自治体職員、国家公務員として活躍することが期待されます。

科目区分		履修科目	単位数	
基礎教育科目	スタディー導入科目		●現代公益論、●基礎演習、●山形地域論	6
	リテラシー科目	情報科目	●情報リテラシー、●データリテラシー、 ●基礎プログラミングⅠ、●基礎プログラミングⅡ	8
		キャリア科目	●キャリアデザイン a、●キャリアデザイン b	4
	リベラルアーツ・STEAM 導入科目		○日経講座：デジタル社会論、社会調査論 a、社会調査論 b、環境社会学、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、法学、政治学、数学 a、数学 b、統計学 a、統計学 b	20
	外国語科目	英語科目	●EAP1、●EAP2、●EAP3、●EAP4	8
その他諸言語科目		○日本語教育とやさしい日本語	2	
専門教育科目	共通専門科目		●国際コミュニケーション概論、●社会学、 ●多文化共生論、●共創の技法	8
	専門基礎科目	領域Ⅰ(英語学・文学)	○英語学概論、○English PresentationⅠ、○英語音声学、English PresentationⅡ, Advanced English Communication, Academic Writing	12
		領域Ⅱ(多文化理解)	○異文化コミュニケーション、○文化人類学、○質的調査法、○グローバル化時代の地域社会	8
		領域Ⅲ(国際社会)	○国際社会学、○国際関係学、○グローバル社会と経済、○移民・難民論、○社会調査演習、国際社会と法、グローバルコモンズと法、国際協力・開発論、農業・食料論、国際経営論、国際観光論、東アジアの政治と社会	24
	応用演習科目		○プロジェクト型応用演習Ⅰ、 ○海外探究型実践プログラム	4
専門演習		●専門演習Ⅰ、●専門演習Ⅱ	8	
発展教育科目	発展外国語		Active Listening and Reading(中級)、Active Listening and Reading(上級)、Intensive Listening and Reading	6
	教職課程			
	留学外国語		○短期留学 a	2
	キャリア発展科目		アントレプレナーシップ入門、アントレプレナーシップ基礎 a	4
リメディアル科目		●国語基礎、●数学基礎	卒業単位外	
合計			124	